

赤坂地域まちづくり構想（地元案）〔概要版〕

1. 目的及び対象地域

●目的

赤坂地域まちづくり構想（以下「まちづくり構想」という。）は、20年後の赤坂地域の「まちの将来像」やそれに向けた取組の方向性等を区民、事業者、行政、地元企業、大学等で共有するとともに、住民組織、事業者、行政等による各事業、また地域協働による取組に反映することを目的としています。

●対象地域

まちづくり構想は、赤坂地区総合支所が管轄する地域（青山地域を含む）のうち、元赤坂1、2丁目と赤坂1～9丁目（右図の赤枠で囲ったエリア）を対象としています。

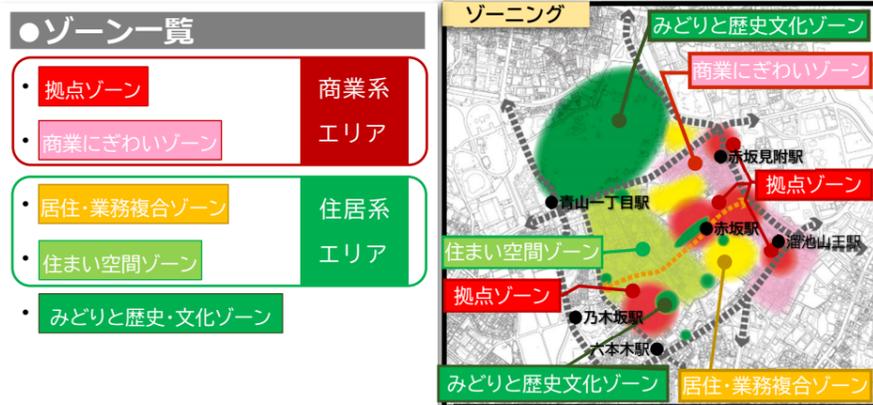
本構想では、このエリアを「赤坂地域」とし、赤坂地区総合支所が管轄する地域は「赤坂地区」と表記することで区別しています。



2. 赤坂地域におけるゾーニング

まちづくり構想の策定にあたっては、赤坂地域における土地利用や施設分布を考慮し、地域が持つそれぞれの区域（以下「ゾーン」という。）の特性に応じて行っていくことが必要です。

「都市計画用途地域図」「建物現況利用図」「都市アメニティ施設分布図」からみる赤坂地域のゾーンを右図のとおりとし、大きく「商業系」「住居系」「みどりと歴史・文化」に分けておられます。



3. 赤坂地域の評価からみる、まちづくりのテーマについて

広く赤坂地域の住民が望むまちの姿や課題を把握するため、住民意識調査、来街者意識調査、事業者意識調査を実施し、これらの調査結果より赤坂地域のもつ魅力と課題について以下のとおり整理しました。

●魅力	●課題
①人口が増加し、特に子ども・若者世代が増えている（住） ②都心の核となる商業拠点が立地している（住）（来） ③都心にもかかわらず、緑が豊かである（住）（来） ④多様な文化・歴史資源が集積している（住）（来） ⑤都心であり、商業地ながら治安がよい（住）（商） ⑥多彩な人々が住み、暮らしている（来）	【該当する意識調査】 （住）…住民（来）…来街者（商）…事業者 ①「赤坂ブランド」が共有されなくなっている（商）（来） ②子どもの居場所・遊び場がない（来） ③週末の人の往来が充分ではない（来） ④地域全体の回遊性が乏しい（商） ⑤ハンディキャップのある人へのやさしさ（住）（来） ⑥来街者は治安が悪いというイメージがある（来） ⑦まちの担い手が活躍できない（住）（商）

上記のとおり整理した赤坂地域の魅力と課題について、さらに魅力を活かし、また、課題を解消する上で7つのテーマに着目して目標を定めました。各テーマの内容については、以下のとおりです。

テーマ	A	B	C	D	E	F	G
	ブランド	子ども	共生（福祉）	安全・安心	にぎわい	景観・街並み	コミュニティ
	未来の赤坂のイメージをつくる	子どもの豊かな育ちを支える	自立した暮らしを支える	住み、働き、学び、遊ぶ上での安全・安心をつくる	質の高い商業環境をつくる	魅力のあるまちの姿をつくる	支え合い、まちをつくるためにつながる

4. 各テーマの目標及び取組の方向性

まちづくり構想における将来像について、赤坂の魅力を支える地域の人々が、我がまちに「愛着・親しみ・誇り」を持ち、いつまでも住み続けたいと思え、ともに支え合う「まち」を目指していくよう以下のとおり定めました。また、テーマ毎の目標及び取組の方向性についても以下のように定め、将来像の実現を目指します。

将来像	テーマ	目標	取組の方向性
多様性と地域の絆が街の魅力を育む、誰もが住み続けたい赤坂	ブランド	地域の豊かな歴史・文化を守りつ、世界中から新しい感性を取り入れ、新たな価値を創出し、発信し続けていくまち	①アプリ等を通じた、赤坂イズムの総合的な情報発信と歴史・文化のPRの推進 ②再開発の促進等による国際性、文化性が感じられるまちづくり ③都市計画等の諸制度を活用した、緑豊かで趣と風格が感じられる環境づくり
	子ども	子ども達が、赤坂の歴史について楽しく学べる場や機会を創出することによる、地元への愛着・親しみ・誇りの醸成	①子どもが参加できる伝統行事やイベントの更なる充実による多世代交流機会の創出 ②赤坂の歴史や文化を学び、地域への愛着を醸成する、新たな機会づくり ③充実した子育て環境を整備し、赤坂での暮らしを支える基盤をつくる
	共生（福祉）	高齢者や障害者が、楽しく豊かに暮らし続けることができる、共助の精神に基づく、人にやさしいまち	①高齢者や障害者が社会参加しやすい、生き生きと暮らせるまちづくり ②自分にあった生活スタイルを楽しむための、アプリ等の集約型情報媒体の活用 ③各種法律・計画を踏まえた誰もが安全・安心して暮らせる住環境、都市基盤づくり
	安全・安心	立ち話ができる空間創出、商業地でのオープンな店づくりの誘導などにより安心を感じることでできるまち	①清掃美化活動の実施等による来街者への意識啓発と環境美化の更なる推進 ②地域行事等を通じ、地域一体となった、防災・防犯に強いまちづくり ③建物の耐震化や帰宅困難者対策を通じた災害に強いまちづくり ④放置自転車の撤去や電線類地中化の推進等による安全・安心な道路空間の確保 ⑤違反広告物の除去やIoTの活用等による歩きやすく、利用しやすい商店会（街）づくり
	にぎわい	拠点ゾーンを結ぶルート新たな回遊動線とし、まちの歴史と品格が感じられる雰囲気と歩いて楽しい空間づくりの創出	①地域の特徴を活かした修景整備やイベント等の実施による回遊性の高いまちづくり ②区民目線の情報発信や地元企業等との連携を通じた、赤坂の新たな魅力づくり ③店舗と住民がつながる、人々が日常的に商店会（街）に通う仕掛けづくり
	景観・街並み	ゾーンに応じて周辺の街並みと調和した歴史とモダンが共存する景観が形成された、環境に配慮したやさしいまち	①区民や地元企業と協働した、緑でもてなすゆとりと潤いある街並みの景観形成 ②特徴ある商店会（街）の区画割等、地域の特性を生かした商業空間の景観形成 ③赤坂地域の特性や周囲の景観と調和した歴史性とモダンさが共存する建築物の誘導 ④防犯パトロール等、地域が一体となった取組による良好な街並み景観の保全 ⑤赤坂の歴史を伝え、地域のにぎわいを創出する公園づくり ⑥省エネ対策の推進や緑化の推進等による環境に配慮したやさしいまちづくり
	コミュニティ	地域の横断的な連携を図ることによる一体的な本構想の取組の展開、並びに将来のまちづくりの担い手の育成	①本構想の各種具体化方策を通じた将来のまちづくりの担い手の育成 ②誰もが気軽に立ち寄り、コミュニティと繋がることができる公園や空間等の創出 ③タイムリーな地域情報の発信による、地域住民のコミュニティの強化

5. 実現に向けて

まちづくり構想の推進には、当該地域に関わる様々な主体（地域住民、土地建物所有者、町会、自治会、商店会（街）、地元企業、大学、再開発事業者、行政等）が連携・協働しながら、中長期的な視点からまちづくりを進めていくことが求められます。

このため、町会・自治会・商店会（街）、地元企業、大学等におけるこれまでの取組を充実させ、さらに横断的に連携して各種具体化方策を展開するとともに、赤坂地域の持続的発展のために、20年後の赤坂を見据えた、**将来のまちづくりの担い手の育成**を目指します。